



明治中期の神戸居留地海岸通り

開港のひろば

NEWS YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

●編集・発行／横浜市総務局横浜開港資料館
横浜市中区日本大通3丁231
電話(045)201-2100 企画室内
●発行日／昭和59年2月1日
●印刷／(有)三信印刷所

今回、二月一日から当館で開催されている「開港化の横浜・神戸」展に出品されている資料を中心に、当館所蔵の横浜と神戸に関する写真・

アーバムを御紹介します。

世界各地からやつてくる人々に対するみやげ物として、明治時代の横浜では、日本の風景・風俗を写したり、鶴卵紙に焼き付けて人着色をほどこし、蒔絵や螺鈿細工の表紙をつけて製本したアルバムや、ガラスに焼き付けて人工着色をほどこした幻燈板がさかんに作られました。明治一三十年代が全盛期で、やがてタブー印刷の普及とともに絵葉書にとってかわられました。これらに含まれる横浜・神戸の風景は、当時「名所」とされていたところ、横浜ならびに居留地の海岸通りや水町通り・本町通りや弁天通り・横浜駅・前田橋からみた元町百段・不動坂上からの根岸湾(ミシシッピー・ベイ)の眺めなど、それぞれ数奇な運命をたどって里帰りし、当館の収蔵庫におさめられています。今回の展示には香港上海銀行社員タウンンド氏と聖公会(英教会)オス主教の個人アーバムが出品されています。前者は神戸支店在勤中のものが一冊、横浜支店在勤中のものが一冊あります。前者は神戸支店在勤中のものが一冊あります。神戸なら諷訪山というよう

収蔵資料の紹介

また明治後期ともなると、居留外国人のなかには、かなりの数のアマチュア・カメラマンがいたようだ。かれらは印象深く终生忘れがたい日本での生活を記録し、アルバムにまとめて大切に保存しました。それらのうちのいくつかは、それぞれ数奇な運命をたどって里帰りし、当館の収蔵庫におさめられています。今回の展示には香港上海銀行社員タウンンド氏と聖公会(英教会)オス主教の個人アーバムが出品されています。前者は神戸支店在勤中のものが一冊、横浜支店在勤中のものが一冊あります。前者は神戸支店在勤中のものが一冊あります。神戸なら諷訪山というよう

うに、ほぼ定型化されていました。そのために、年代の異なる同一地点からの写真が残されることになり、今はなき古き横浜・神戸の風景を蘇えさせてくれるとともに、街並の変遷を知る上でも格好の資料となっています。

また明治後期ともなると、居留外国人のなかには、かなりの数のアマチュア・カメラマンがいたようだ。かれらは印象深く终生忘れがたい日本での生活を記録し、アルバムにまとめて大切に保存しました。それらのうちのいくつかは、それぞれ数奇な運命をたどって里帰りし、当館の収蔵庫におさめられています。トーマス氏の一人娘エルザさん(カルボ夫人)から神戸市に寄贈されたものです。前回(資料に見る横浜の歴史)展に出品されたピーターソン氏のアルバムも遺族の荒木セルマさんから横浜市に寄贈されたもので、氏が経営していた鉄工所(Peterson Engineering Co.)の内部写真など、産業史の上からも興味深いものです。今回は出品されませんが、同様のものに、神戸のバルカン鉄工所の写真を含む作者不明のアルバム、またイギリスの神戸領事アベル・ガワーが自ら撮影したと推定される写真を含むアルバムがあります。これらは居留外国人の生活を内側から記録したドキュメントとして、他の資料ではかえがたい価値をもつています。

館長対談

樋口次郎氏をゲストに

樋口氏は、横浜水道を始め横浜の都市計画に貢献した御雇外国人ヘンリー・S・パーマーの孫にあたり、近年、パーマーの遺稿を「黎明期の日本からの手紙」(筑摩書房・昭和五十七年)として翻訳出版するとともに、引続き条約改正問題などパーマー研究に情熱をそそがれている。

館長 樋口さんは戦前戦後を通じて横浜に住んでおられたわけですが、横浜に対する印象はいかがでしょうか。

樋口 私は大正六年に横浜で生れ、震災後横浜に戻ってきて山手の元街小学校に入学しました。元街小学校はその頃非常に近代的な建物でしたね。私には外国の血が入っているものですから英語に対する感覚が良かつたんでしょうか、外国人とも日本人とも色々な方と知り合いになりましたし、横浜にはアット・ホームで良い感じを持つていました。

館長 横浜には外国人を中心とした国際社会という感じが濃かったんでしょうね。戦前戦後の街の違いはどう感じられますか。

樋口 戦争中はベトナムにおりまして、帰つてみると焼野原でした。弁天通りや元町のたたずまいが全々変つてしまつてました。弁天通りなんかは非常に良かったんですけど

がね。東京からも知識人や学生たちがやってきたスペリオールともうとも上等なコーヒー・ショッピングがありまして、実に立派な調度家具を備えてました。南仲通りにも個性的なカフェとかバーがありまして横浜らしい落着いた感じでした。元町もそうでしたね。

昭和十一年から杉田に住んでいますが当時は別荘地だったようですね。海がすぐそばでおいしい魚が採れて、農家と漁家と民家が非常にうまく混り合っていました。戦争が激しくなつて物資が欠乏しているときも協力関係が強かったです。

館長 おじいさんであるパーマーさんにについてお伺いしたいのですが、パーマーさんはどういうお仕事をされて、横浜はどういう関係をお持ちだったのでしょうか。

樋口 姉の長男がハーバード大学で英國オックスフォード大学ブレスから出ている国民伝記辞典にパーマーの経歴が書いてあるのを見つけ



遠山館長



樋口次郎氏

二十六年に東京で亡くなりました。

館長 パーマーさんは、横浜を始めとして、大阪・神戸・東京などの水道計画に関係されたそうですが、もともと技術家で水道を手がけてこられたのですか。

私は國会図書館などで行って調べましたところ、横浜とのつながりが非常に強いことが解りました。日本に来る前、パーマーは香港で総合観測所の設計などを手がけていたのですが、明治十五年までに帰英途中、船待ちで三日間東京の英國公使館に滞在していましたところ、パークス公使の口過ぎで井上外務卿から横浜の水道計画について詮問を受けました。自分の経験からこうだと即答して、三田さん(善太郎・当時神奈川県御用掛のち初代横浜市技師長など)と相談したようですが、結局歩いてみてくださいということになつて、そこで急ぎよ休暇を三ヶ月延長して見積りに入つたらいいですね。

水道のことで正式に日本に招かれたのは明治十八年で、その後横浜の築港工事の設計監督をしたり、ドックの計画もしましたが、明治一・メールが國会図書館にも東京大学にもなかつたのです。ところがここに来たら、あつた。嬉しかったですね。それから、昨年運輸省にパーマー直筆の設計見積書が保存されているということで館員の方と一緒に行きました。館の方ではマイクロフィルムに撮影して保存されるところで、このよう

に研究者や市民の方々と館員の方と一緒に研究にあたるという関係が共同で研究にあたるといふことはマイクロフィルムに撮影して保存されるところで、このよう

に研究者や市民の方々と館員の方と一緒に研究にあたるといふことはマイクロフィルムに撮影して保存されるところで、このよう

人の能力を信頼したということが、国際友好を進める上で大きな力になったのではないか。パーマーさんは御雇外国人の中でもすぐれた成績を残した一人ではないかといふ感じがします。また条約改正に関する評論の翻訳など今後の樋口さんの研究が進むことに歴史学会は大きな期待をもっていると思います。最後に、当資料館を利用され、不満点とか改善した方が良いといふことがあります。

すね。

試行錯誤しながら近代化を進めているのをみて、日本を研究する価値があると考えたのでしょうか。

館長 御雇外国人は、日本に近代的な技術・學問を教えただけではなく、明治維新的経過やその後の近代化の状況を歐米へ知らせていました。(去る一月十八日の対談です)

